

QOL

No.23

QOL
サポーター
新潟

Quality Of Life



平成22年8月7日(土)夏晴れの天候の中、本学において第2回オープンキャンパスが開催されました。

INDEX

- 対談企画
- 暮らしサイエンス
 - ・メディカルクラークと医療のIT化
- 言語発達支援センターの紹介
- 連携教育学生セミナー開催報告
- 基礎ゼミ紹介
 - ・学生、教員交流会
 - 理学療法学科 / 作業療法学科 / 言語聴覚学科
 - 義肢装具自立支援学科 / 健康栄養学科
 - 健康スポーツ学科 / 看護学科 / 社会福祉学科
 - 医療情報管理学科
- 部活動紹介「強化クラブ」
 - サッカー部 / バスケットボール部 / 水泳部 / 陸上競技部
- CAMPUS NEWS
- 第10回伍桃祭(大学祭)案内
- 受験生のみなさんへ



新潟医療福祉大学

2010年9月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



新潟医療福祉大学 教育担当副学長
江原 義弘



新潟医療福祉大学 学生部長
西原 康行

入学前から学習支援をスタート 学生を多くの教員の目で見守ります

江原 本学における学生支援の2つの大きな柱は、学習支援と学生生活支援です。まず学習支援に関しては、入学前から取り組んでいます。理数系の科目を高校で履修していない学生もいることから、入学が早く確定した人を対象に問題集等の課題を出したり、インターネットを使ったeラーニングなどを行ったりしています。また入学前にスクリーニングを行い、その模擬授業では小学校で習った理科が大学の授業とどのようにリンクしているのかを分かり易く講義するなどしています。

西原 理数系の科目が苦手な学生も、安心して入学できるように指導しているのが本学の特徴ですね。

江原 ええ。親御さんの心配を解消するためにも大事なことです。それから本学の基本方針は「学力レベルの全体的な底上げ」ですから、入学後にプレースメントテストを実施しています。さらに英語では、学生の習熟度に合わせたクラス編成を行っています。卒業までには、ほとんどの学科が国家試験合格レベルにまで、学生の学力レベルを引き上げます。

江原 入学後は、1年前期から「基礎ゼミ」があります。このゼミは全教員が参加して、教員1人が6~7人の学生の学習と生活の指導にあたっています。

西原 確かに「基礎ゼミ」をきっかけに仲間ができるので、本学では、よく一般的に言われるような「1年生のゴールデンウィーク明けから休みがちになる」といった学生はいませんね。



江原 学科によっては、1年から3年までは、この基礎ゼミの先生が、4年からは卒研ゼミの担当教員が担任の役割を果たします。このように4年間一貫して、教員の眼が行き届く大学は珍しいと思います。そして学生が安心して学習に取り組めるように、「基礎ゼミ」の教員を中心とするセーフティネットがあることも本学の大きな特徴です。このセーフティネットは何重にもめぐらされており、例えば、基礎ゼミの教員が一番身近にいる。その次には学年担当の教員がいる。さらに学科全体を見る学科長がいる、といったように、学生一人ひとりを全教員でフォローしています。

西原 また本学では学習支援委員会があり、各学科に学習支援委員の先生がいます。その学習支援委員を中心に、学生の学習面・身体面・メンタル面を掘り下げて支援を行っています。さらに、臨床心理士によるカウンセリングを受けることも可能です。このように一人ひとりの学生を多くの教員の目で見守り、問題の早期発見や解決に努めています。

江原 他にも本学では授業に関して、学生の満足度を高めるために「授業アンケート」を実施し、教員は教え方を改善して学生にフィードバックしています。さらに、最近始めたユニークな取り組みとして、3年生から希望制で教員を指名できる「プロジェクト演習」があり、大学院進学希望の学生の興味を深めるなど、学習意欲の高い学生のサポートも万全に行っています。

西原 学生と教員の両方が進化する良い循環ですね。

本学が行っている学生支援の 特徴的な取り組みについて、 江原副学長と西原学生部長に 対談していただきました。

西原 このような学習支援の取り組みを踏まえて、専門科目に系統性を持たせ、「将来どんなところで役立つか」が分かるカリキュラム構成も検討し始めています。

江原 良いことですね。やはり専門科目については、学生が「何のために勉強しているのか」を分かるような授業を進め、「授業が分からない」という学生をなくしたいですね。

地域と協力した生活支援など、 様々な方法でバックアップ

西原 生活支援の面でも「基礎ゼミ」が大きな役割を果たしていますが、それとは別に地域と協力した支援も行っています。例えば、一人暮らしの学生が多く住んでいる陽光台団地では、大学と一緒に自治会が新入生歓迎の食事会を企画するなど、学生たちが地域に溶け込めるような取り組みを行っています。

江原 生活面では、各学科にいる学生委員の教員が一番身近な相談役でしょう。

西原 ええ。学生委員が中心となって事務局と連携して情報収集し、問題解決に努めています。また収集した情報を公開するなど、学生にフィードバックして、教員と学生が両輪となって改善を進めているところです。

江原 その他には、匿名で意見できる目安箱も役立っていますね。

西原 さらに学生が主体の学友会活動と教職員との会議があり、ダイレクトに学生の代表の意見を聞く機会も設けています。

学生たちに「もっと自信を持って一緒に頑張ろう！」 と伝えたい

江原 本学学生は素晴らしいポテンシャルを持っています。それらをもっと引き出すことができれば、学習や生活のあらゆる場面において、今まで以上に学生が互いに支え合うことも可能です。その為には、学生が学生を指導できる仕組みづくりや、学生がさらに勉強しやすい環境づくりが大切です。例えば、学科や学年を越えた付き合いができるクラブ活動をより活発にする。特に学習に関連する文化クラブがもっと増えれば、学生同士が切磋琢磨してよい循環が生まれます。また、「上級生と下級生が助け合う仕組み」を授業に取り込めないかと模索もしています。

西原 私も仕組みづくりは大切だと思います。大学は社会に出るための最終的なトレーニング機関なので、学生が自立・自律できるように教員は後押しする。それをセーフティネットで最後までサポートする。今後は、上級生が自主的に動ける仕組みづくりを一層充実させたいと思っています。

江原 現時点でも教員は学生の成長を上手くサポートしていると思いますよ。実際、本学の国家試験の合格率はかなり高く、資格によっては日本一を誇ります。本学で学習することによって4年間で着実に力が付くので、学生たちに「もっと自信を持って一緒に頑張ろう！」と伝えたいですね。



深刻な医師不足、医師数の地域格差は、「医療崩壊」とさえ言われています。特に病院勤務医への過剰負担は、勤務医離れを助長し悪循環を生んでいるように思われます。その負担要因の一つが、病院勤務医が各種医療記録や診断書・情報提供書作成などの医療に付随する事務業務を行わなければならない事が指摘されています。この部分の負担を軽減する事が、医師不足対策となると同時に医療の質の向上につながるとされ、平成20年の診療報酬改定で「医師事務作業補助体制加算」として一定の要件を満たす病院において「医師事務補助者」を置いた場合、診療報酬を算定できるようになりました。さらに別表のように平成22年の診療報酬改定で、診療報酬が強化されました。全ての一般病院で算定できない事や、加算分だけでは人件費をまかなえないなどの問題点はあるにしても、医師不足解消への大きな前進といえるでしょう。



※別表

平成22年度診療報酬改定

●医師事務作業補助体制加算、今年度の改定で強化された。

1.	15	: 1	補助体制加算	810点	(新設)
2.	20	: 1	補助体制加算	610点	(新設)
3.	25	: 1	補助体制加算	490点	(355点)
4.	50	: 1	補助体制加算	255点	(185点)
5.	75	: 1	補助体制加算	180点	(130点)
6.	100	: 1	補助体制加算	138点	(105点)

(病床数：配置人員)

メディカルクラーク？ドクターズクラーク？メディカルセクレタリー？…

医療事務といえば、「診療報酬請求事務」を指すくらい代表的な事務作業ですが、病院組織のいわゆる「医局」等での医師の秘書的な事務(狭い意味での医療秘書：メディカルセクレタリーと呼んでもいいと思います)、外来での受付事務、病棟での事務、病歴管理業務など様々な事務作業が医療機関の中にはあります。さらに一般企業と同様に、医療に直接関与しない総務・人事・経理等の裏方の事務作業も医療機関の経営には不可欠です。

現在、その医療機関での事務職について、メディカルクラーク、医療秘書等の様々な資格・名称があります。「いったいどれが正しいのか？」と疑問に持つ方も多いのではないのでしょうか。これは、医療事務分野の資格が「国家試験による国家資格・公的資格」化されていないために様々な資格認定団体によって独自の資格名称を付与する事がその理由として挙げられます。

しかしメディカルクラーク等の名称はともかくとして、医師をサポートし、電子カルテの代行入力・手術や検査結果の記録・カンファレンスの記録・各種診断書の作成などを行うほか、患者と医師との橋渡し役になるなど、医療機関の事務職が、医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性が増してきている事は確かです。

このような事務職員を診療報酬請求では「医師事務作業補助者」と呼んでいます。「ドクターズクラーク」という資格を認定する団体もあります。尚、この職員は診療報酬請求事務職員と兼務出来ない仕組みとなっています。

また、「スペシャル医療クラーク」として独自の育成コースを持って人材を養成し大きな成果を挙げている、国立病院機構「京都医療センター」のように、先進的な取り組みを行うところも出て来ました。

医療のIT化の現状と展望

病院協会のアンケート調査によれば、各種検査等の指示(オーダー)を管理するオーダリングシステムが稼働している病院は、約3割(計画中を含めると約6割)、電子カルテは、1%の稼働(計画中を含めると約3割)。但し、給食システム・看護支援システム・リハシステム・薬剤の管理システム等部門別のスタンドアロンシステムの普及は6割以上でみられIT化の進展が伺えます。今後、これらのシステムが統合され総合的な病院情報システムへ進展していくことが期待されます。

また、電子カルテシステムやオーダリングシステムに代表される医療情報のIT化は、診療報酬請求(レセプト)システムを中

核として普及してきました。診療報酬請求は、保険医療機関の収入の源泉ですから、移行措置があるとはいえ電算化が義務付けられており、今後は100%の稼働となるでしょう。

医療のIT化は、病院内の各職種間の連携、医療機関と在宅ならびに介護保険施設などとの連携を進めていくうえで、必要不可欠です。そのための医療IT技術者の必要性がますます高まってきています。

個人情報保護を前提として、ITを利用した医療情報の共有とその活用が、患者さんや対象者のQOLを高める為の重要なツールになると思われます。



言語発達支援センターの紹介

子供の言語発達と地域貢献を目指して

言語聴覚学科 / 准教授 吉岡 豊



言語発達支援センター設立の趣旨

はじめに、言語聴覚士について簡単にご紹介します。言語聴覚士とは、ことば、聴覚、摂食・嚥下(食べること、飲み込むこと)に問題を有する子供や成人の評価・訓練を行う専門職のことです。

病院のリハビリテーション科などでは成人を中心とした臨床が展開されていますが、言葉に遅れがある就学前の小児に対しては相談できる施設が少なく、特に新潟市北区周辺地域ではその傾向が顕著のようです。このことをふまえ、新潟医療福祉大学では、子供たちのことばの発達を支援する一翼を担い、かつ周辺地域に貢献することを目的に2010年1月、キャンパス内に言語発達支援センターを設立し、4月より本格的に活動を開始いたしました。

なお、本センターを設立した目的はもう一つあります。それは

人材育成という目的です。「人」というものが代々続く限り、ことばに問題を有する子供たちはいなくならないと思います。遠い将来に生まれてくる言葉の遅れた子供たちを訓練するのは次代の言語聴覚士です。大学にはその次代を担う言語聴覚士の卵たちが大勢います。知識がなければ診てもわかりませんが、診なければ知識と技能は得られません。明日の子供たちを支援するためにも言語発達支援センターは存在しているということもご理解いただきたいと思います。

ことばの問題とは

●言葉の遅れ(特異的言語発達障害)

自動車のことをブーブーとしか言えなかったり、て・に・を・は(助詞)を使って話ができなかったり、年齢に見合ったことばを使うことができない状態をことばの遅れといいます。言葉の遅れには、聞いたことばを理解する「理解面」と自分の意思を言葉で相手に伝える「発話面」があります。「発話面だけが遅れている子」と「理解面と発話面両方が遅れている子」の2つのタイプが知られています。

●聞こえの問題(難聴)

生まれつきや耳の病気で聞こえが悪くなってしまうと、言葉の獲得に遅れが生じることになります。言葉の遅れの状態は聞こえの程度や聞こえにくさ(聴力の型)などによって変わります。発音がおかしい子どもの場合、聞こえが低下していることもあります。補聴器や人工内耳を装着して、ことばの獲得を促す訓練が必要になります。

●視線が合わないなど(自閉症)

自閉症では、「他人との関係が希薄で社会的な関係を上手に作るのが苦手」、「言葉を適切に使用してコミュニケーションをとることが難しい」、「様々な場面で想像力を駆使した遊びや活動が困難であり、個々の興味関心が狭く、特定の物や人などに強くこだわることが多い」といった特徴があります。言葉はかなりのレベルで話せるのにコミュニケーションが上手に出来ない子、オウム返しに言葉を送ったり紋切り型の話方をしたりする子もいます。

●発音の誤り(構音障害)

子どもの話しことばでは「おさかな」を「オシャカナ」と言うことがあります。このような状態が就学直前あるいは就学後も続いている場合は発音訓練が必要となります。このような発音の誤りが起こる原因には、口蓋裂といった上くちびるや口の天井である口蓋が割れて生まれてくる、日本人に比較的多い病気による場合と、発音器官に問題がなく原因を特定できない場合があります。

●なかなかことばが出てこないなど(吃音)

話すときの最初の音を「ぼ、ぼ、ぼぼ、ぼくは……」というように何回も繰り返したり、「……ぼっく」と、音がすぐには出なかったりする状態です。放置しておく症状が重くなることがあるので早期に専門的な対応が必要となります。特に子供の頃は周りの人の接し方が大切です。「ゆっくり」「はっきり」などの言葉かけは自分の言葉を意識しすぎて逆効果になるので注意が必要です。

この他にことばの問題には学習障害や注意欠陥障害、知的な遅れなどもあります。当センターは明日を担う子供たちが健やかに成長していくことを願い、保護者ととも子供たちを支援していきます。それが言語聴覚士の役割であると信じてやみません。そして、より良い言語聴覚士を育てることも本学の務めです。その実践の場として言語発達支援センターが地域に用いられ、よりよいQOLサポーター育成の場となれるようにと願っています。

今後の展望

言語発達支援センターを立ち上げて数ヶ月が経ちました。まだまだ周辺地域に浸透しているとはいえない状況ですが、少しずつ相談に来られる方が増えてきました。ことばの状態は吃音、構音障害、言語発達遅滞、症候群によることばの遅れと多

岐にわたっています。センター員である教員がよい臨床をしていけば必ず地域にその存在が浸透し、地域のQOLサポーターとして貢献できると確信して活動をしていきたいと思っています。

連携教育学生セミナー開催報告

8月18・19・20日の3日間、平成20年度に文部科学省に採択された戦略的大学連携支援事業(代表校:新潟青陵大学)の今年度事業として、共生型大学連携 包括的施策「連携教育学生セミナー」が開催されました。

この事業は、本学を含む新潟県内で保健・医療・福祉専門職の養成を行っている7つの連携校が、チーム医療・専門職連携を実践的に学ぶことを目的に企画されたもので、県内の病院・施設にも実習地としてご協力いただき、大変成果のあるセミナーとなりました。今回その取り組みと実施報告をご紹介します。

連携教育学生セミナー実施概要

日時/8月18・19・20日(3日間)

参加大学/新潟青陵大学、新潟大学、敬和学園大学、新潟薬科大学、明倫短期大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟医療福祉大学

会場/新潟大学医学部有壬記念館

実習協力施設/こぶし園(長岡市)、上村医院(魚沼市)、押木内科・神経内科医院(新潟市江南区)、堀川内科神経内科医院(新潟市中央区)、新潟リハビリテーション病院(新潟市北区)、総合リハビリテーションセンター・みどり病院(新潟市中央区)、独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院(新潟市西区)、新潟県立津川病院(東蒲原郡阿賀町)、新潟県立リウマチセンター(新発田市)

スケジュール

- 1日目(8月18日) / 英国連携教育推進センター副センター長 ヘレナ ロウ先生による講演・指導
・グループワーク(事例の予習・実習準備)
- 2日目(8月19日) / グループ毎に分かれ、県内の各実習協力施設、患者様宅などを訪問。
予習・準備に基づき、病院施設スタッフ・患者様へのインタビュー
- 3日目(8月20日) / グループ別事例検討・ポスター作成
・発表
・ヘレナ ロウ先生による総括



他職種との連携のあり方やチームアプローチを学ぶための「連携教育学生セミナー」開催

連携教育推進委員会 松井 由美子(看護学科/講師)

連携教育学生セミナー開催2年目を迎えて

昨年に引き続き、英国連携教育推進センター(CAIBE)のヘレナ・ロウ副センター長をお迎えして、第2回目となる連携教育学生セミナー2010が開催されました。このセミナーは青陵大学を代表校とする戦略的大学連携支援事業「共生型大学連携」の企画の一つとなっています。8月18、19、20日の3日間、県内7大学より学生57名、教員・事務職員26名の総勢90名近い参加者となり、活気あふれるセッションとなりました。

昨年同様この企画は、将来の専門職となる学生たちが卒業前にチームアプローチの演習を体験し、多職種連携協働(IPW)の能力を身につけるためのものです。そのために欠かせないことが地域に密着した多職種連携教育(IPE)です。国内でも多くの大学が現場の協力を得て地域密着型の演習を展開しています。本セミナーはコンパクトに3日間でそれらを体験でき、2日目に協力いただいた9つの施設や病院現場を見学し、実際の患者様や利用者の方々、ご家族にお会いしてお話を伺うことができました。

今年の特徴としては、新潟大学から8名の医学生が参加してくださったことや、明倫短期大学から歯科技工士を目指す1年生の3名も加わり、職種の幅も昨年より拡大されたことなどです。また、昨年度の反省を活かして、今年はファシリテーター(人々の活動を支援し、促進する役割を担う人:進行役)心得が作られ事前に教員に配布されたことなどが新しい試みとなりました。

●第1日目

午前中はヘレナ・ロウ先生からIPE/IPWに関する講義を受け、学生は「お互いを尊重し援助しあうこと」、また「自分の目指す専門職や他の学生の専門職の知識や技術について認識すること」を学びました。WHOレポートによる世界的なIPE/IPWの動向や政権交代後の英国のIPE/IPW事情についても伺うことができ、とても参考になりました。

午後は学生・教員共にアイスブレーキングの後、事例検討のためのグループワークに入り連携という視点で話し合いが進められました。

●第2日目

各グループの学生や教員は所定の施設に訪問し、利用者様や在宅で生活している患者様とご家族の方々に直接お会いして話を伺うことができました。まだ実習を経験していない学生も多く、この体験は患者様やご家族、施設利用者の方々のQOLを考える上でも、また今回の目的であるチームアプローチを学ぶ上でも最も貴重な体験になりました。

●第3日目

午前中のグループディスカッションでは、2日間で学習し体験したことを、それぞれの専門職の視点やお互いの意見を大切にしながら発表に向けてまとめることができました。午後からの発表は緊張しながらも、学生の実りある3日間が感じられる内容のものでした。ヘレナ・ロウ先生はすべてのグループに「一番困難だったことは何ですか?」という同じ質問をされて、「各専門職がお互いから学び合うことで専門職同士の偏見や競争意識を取り除き、誤解や既成概念に向き合うことがお互いの信頼や尊敬を育む」ということを再確認することができました。

学生は自分自身の体験を振り返りながら、あらためてその体験を価値あるものとして感じる事ができたようです。今回の連携教育学生セミナーにご協力くださった先生方、そして病院や施設のスタッフの皆様、何より患者様や利用者様とご家族の方々に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回のセミナーでは訪問を心待ちにされながらお亡くなりになられた患者様がいらっしゃいました。患者様のご冥福をお祈りいたしますと共に、生前の闘病のご様子や介護の様子をお話しくださいましたご遺族の方、病院関係者の方々に深く感謝申し上げます。

基礎ゼミ

学生・教員交流会紹介

基礎ゼミは1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7～8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。



01 基礎ゼミを通して学んだこと

医療技術学部 理学療法学科 長峯 沙紀子



初めに「基礎ゼミ」の説明で討論などが主な活動内容と聞いた時、人前で話すことがとても苦手な私は少し不安になりました。しかし実際にゼミで活動を始めてみると、想像していたよりずっと楽しく過ごせました。

討論も、もちろん行いましたが、4月のゼミ対抗球技大会に始まり、ワールドカフェ、ボウリング大会など活動内容もとても面白いものばかりでした。前期最後の基礎ゼミでは、ゼミ毎のBBQも計画され、学生が中心となって企画・運営を行いました。企画・運営を自分たちで行うということで、自分

の行動に責任を持つことの大変さを感じるとともに、とてもやりがいを感じる事が出来ました。

また、私の所属する菅原ゼミでは、菅原先生が4年生の先輩を紹介してくれたこともあり、実習の大切さ、大学生活の過ごし方など、先輩のお話を聞くことができました。1年生の前期は、分からないことばかりでとても不安な時期だと思います。だからこそ「基礎ゼミ」はとても大切な時間でした。新しい友達との出会いや、初めての経験がたくさんあります。今、私が大学生活を楽しめているのは、基礎ゼミでの体験があったからこそだと思います。

02 基礎ゼミを通して

医療技術学部 作業療法学科 根岸 ありさ



私たちの泉・相田ゼミは、皆明るく、先生も気さくに接して下さるので、常に笑いの絶えない楽しいゼミです。

基礎ゼミの3回目には、先生方や同学科の学生と親睦を深める学生・教員交流会がありました。交流会では、教員も参加し各ゼミ対抗で様々なゲームをしました。この交流会を通して、皆の意外な一面を見ることができました。また、多くの人と親睦を深めることができたことにより、これからの大学生活をより充実させるきっかけにもなりました。

毎週の基礎ゼミ活動で、私たちのゼミではTシャツ作りを行っています。Tシャツ作りと並行して、「良い作業療法士になるための話し合い!!」などもしました。その中で「みなさんは、「聞く」と「聴く」の違いが分かりますか?」という質問があり、「聞く」は自然と、無意識にでも耳に入る音をきくことですが、「聴く」は耳と十の目と心(「聴」を分解すると左記のようになります)を使って「きく」ことだと再認識しました。

患者さんの心の声を「聴く」ことができる作業療法士になれるように、このゼミで学んだ事、感じた事を糧に頑張っていきます!

03 基礎ゼミ交流会

医療技術学部 言語聴覚学科 小泉 健太郎



学科内交流会ソフトバレー大会について、最初は正直な所「なんか面倒臭いなあ」と思っていました。そんな自分がこのソフトバレー大会の実行に携わることになり当初は悶々とした気分でしたのですが、周りの皆のやる気に満ちた発言やどうせなら楽しもうといった姿をみて、気持ちを切り替えて取り組むことを決めました。

自分の担当は体操係でした。人前に出ることが苦手な自分はそれだけで気おくれしてしまいましたが、幸いにも同じ

体操系の学生が支えになってくれ、ソフトバレー大会当日はミスなく無事につとめをはたすことができました。試合はゼミ対抗によるトーナメント形式で進め、自分たちのゼミは一試合目は勝ち、ゼミ内でおおいに盛り上がりましたが2試合目は惜しいところで負けてしまいました。

振り返って考えてみると、交流会を機に学科内のメンバーの結びつきが一層濃くなり、互いを思いやる心が芽生え、協力して言語聴覚士を目指すことができるようになったと思います。できることならもう一度交流会をしてみたいです。

04 義肢装具自立支援学科の交流会

医療技術学部 義肢装具自立支援学科 秋山 朋信



6月2日に大学からすぐ近くの「海辺の森」で、ゼミ毎に分かれてのバーベキュー大会が行われました。

入学してまだ2ヶ月ほどであり、同じクラスでも話す機会がほとんどない人もいましたが、美味しく焼き上がったお肉を食べながら話していると、いつの間にかたくさんの仲間の輪ができていました。近寄りたたいイメージだった先生方とも、打ち解けて話しをすることができました。先生のお話はたくさんの経験や思い出、学科の成り立ちなど興味のある話ばかりで

した。

大学内とはまったく異なる環境で、同じものを食べて、楽しい時間を共有するということは、心理的な距離感を縮めることになると感じられました。おかげでゼミ生はもちろん、クラスの仲間、そして先生方とも親睦を深めることができ、とても良い思い出になりました。

これから4年間、私は、こうして築いていく人と人のつながりを大切にして、またたくさんの人の助けを借りて過ごしていくと思います。

05 栄養の絆深まる

健康科学部 健康栄養学科 上岡 由実



健康栄養学科毎年恒例のデイキャンプは、先生方曰く毎年晴れ男、晴れ女がいるらしく今年も太陽がさんさんと降りそそぐ中での開催となりました。キャンプ場に到着してまずしたことは、料理をするために使う火をおこす事でした。火をおこす事は、思った以上に難しけどのゼミも苦労していましたが、そこはさすが栄養学科、料理作りなどは皆手際よくやりました。お好み焼き、焼きそば、パエリア、豚汁、ホットケーキにクレープなど美味しいような料理が完成し食事開始。色々なゼミの料理を食べながら

沢山語り合い、沢山食べ皆お腹いっぱいになりました。楽しい食事になって本当に良かったと思います。

そして、レクリエーションの宝探しを終了後、皆揃って記念撮影をしました。皆の顔は笑顔で溢れていて楽しいデイキャンプになりました。

私はこのデイキャンプを通して、4年間、共に過ごしていく友人たちや先生方と深い絆を築くことが出来たと思っています。これからもっと深い絆が築いていけるよう皆で仲良く大学生生活を過ごしていきたいです。

06 楽しい仲間ができました

健康科学部 健康スポーツ学科 伴藤 美久



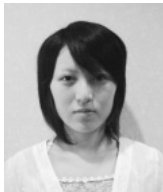
私たち、健康スポーツ学科は6月16日に学生・教員交流会として、ソフトバレーボール大会を行いました。健康スポーツ学科の学生ということもあり、スパイクやブロックなど素晴らしいプレーをしている人がたくさんいて、どこのゼミもレベルが高く、とても白熱した試合が各コートで行われていました。

私はこの交流会で、ゼミのメンバーだけでなく、同じ学科であり話したことのない人や先生と話す機会を持つことができました。試合はゼミごとの対戦だったため、チーム

ワークをより一層深めることができたと思います。私のゼミはチームワークがよく、メンバーの一人ひとりの活躍もあり、なんと決勝戦まで勝ち進み、準優勝を遂げることができました。とても楽しく、そしていい試合が出来たと思います。入学してから、大学生活にもやっと慣れ始めた時期での交流会だったので、この会を通じて先生や仲間同士の親睦を深めることができました。基礎ゼミの仲間とは、その後もバーベキューに行くなど、大学生活がとても充実しています。

07 基礎ゼミ交流会を終えて

健康科学部 看護学科 加藤 莉華



私は最初、この基礎ゼミ交流会が不安でした。なぜなら、まだ顔と名前が一致していないようなグループの人たちと一緒にレクリエーションをしなければならなかったことやグループ対抗だったので私が迷惑をかけてしまわないかということが気掛かりだったからです。

ですがレクリエーションを通して徐々にメンバーの人達と話すようになり、またゲームの作戦を考えるなどコミュニケーションが増えていきました。そんな私たちに先生もア

ドバイスをしてくださり、何より先生も楽しそうにゲームに参加してくれたことが嬉しかったです。

結果的に私たちのグループは賞などを取ることはできませんでしたが、この交流会でお互いを知り、距離を縮めることができ楽しく終えることができました。私はこの交流会を通してただ待っているだけでなく、自分から積極的に行動していくことや協力することの大切さを知りました。基礎ゼミ交流会で改めて知った積極性や協調性を、これからの学校生活や学外実習などでも生かすようにしていきたいとします。

08 食べた! しゃべった! 交流会

社会福祉学部 社会福祉学科 桐生 歩美



私たちの基礎ゼミでは「北区探検隊」と称して、北区の歴史、自然を探索しています。福島潟で自然を楽しみ、日本初の道の駅である豊栄道の駅や新潟の特殊な砂丘のことを勉強したり、海岸の清掃作業をしたりしました。その後、「北区探検隊」などの写真を整理し、感想を言い合いました。基礎ゼミはとても価値のある時間でした。

また、6月2日に聖籠のオレンジカフェで基礎ゼミ交流会がありました。美味しい物を食べると自然に会話が弾み、ゼミ

メンバーの意外な一面を知って、驚くやら、感動するやら…一段とゼミメンバーに興味と関心がわいてきて、これからのゼミに向けて期待がふくらみました。大学生活の不安も皆に打ち明け共感しあい、絆が一段と深まったように思います。ビンゴ大会では、「リーチ!ビンゴ!!」などの声飛び交い、とても盛り上がりました。この交流会でゼミの枠を超えて交流を深めることが出来ました。

これから4年間同じ夢を持つ者同士、支え合い、刺激しあって成長していきたいと思っています。本当に皆に出会えて良かったと思っています。

09 学生・教員交流会

医療経営管理学部 医療情報管理学科 有馬 悟司



今年スタートしたばかりの医療情報管理学科。僕たち1期生にとっては何をすることも手さぐり状態でしたが、交流会実行委員の協力のもとに話し合いを進め、その結果、オリエンテーリングと車椅子リレーを企画しました。オリエンテーリングは施設内に散りばめられた○×クイズ計30問の得点を競うもので、先生方に関する問題も盛り込みました。また、車椅子リレーでは競技用のものを使用し、体育館を大きく使いました。クイズは難問・奇問も多かったようですが、皆ゼミの仲間と相談したり

(こっそり携帯電話で調べたり)と、楽しんで取り組めたようです。また車椅子リレーでは、優勝をかけて各ゼミの学生・教員が一丸となり、白熱した戦いを繰り広げていました。

今回、僕は企画という立場でしたが、この学生・教員交流会を成功させることができ良かったと思います。また、交流会終了後に「楽しかった」、「良かった」などの声を先生方や皆から聞くことができ、企画した交流会委員としてはとてもうれしく思いました。

強化クラブ紹介



サッカー部

2005年度に発足した男子チームは、北信越大学サッカーリーグ1部、北信越フットボールリーグ2部に所属しています。今年度は、総理大臣杯出場、インカレ3年連続出場、北信越フットボールリーグ1部昇格を目指しています!



女子部員(波佐谷・川村・小原・斉藤・山崎・中村)は、アルビレックス新潟レディースに所属し「なでしこリーグ」でプレーしています。昨年度は波佐谷・川村・小原選手が新潟県選抜選手として「トキめき新潟国体」準優勝。小原・山崎選手がU-19日本女子代表選手として「AFC U-19女子選手権 中国 2009」優勝。川村選手が日本女子代表選手として「BICENTENNIAL WOMAN'S CUP 2010(チリ)」優勝。今年度は小原選手がU-20日本女子代表選手として「FIFA U-20 女子ワールドカップ2010 ドイツ」に出場しました。

男子・女子部員ともに、常に「向上心」を持ち、しっかりと練習に取り組んでおりますので、ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

■2010年度 後期活動計画

10月	北信越大学サッカーリーグ
11月	北信越大学サッカーリーグ、新潟県大学・高専秋季トーナメント
12月	全日本大学サッカー選手権大会、新潟県大学・高専秋季トーナメント
1月	全日本大学サッカー選手権大会、日本視覚障害者サッカー選手権大会
2月	通常練習(体育館・トレーニングセンターでの活動)
3月	通常練習(アルビレッジでの活動)、筑波遠征(全国大学対抗フェスティバル)

*女子部員の活動については、アルビレックス新潟公式サイトをご覧ください。

水泳部

水泳部は、創部6年目をむかえ、男子が関東学生選手権2部で総合2位を獲得、初の1部昇格を果たし、男女揃って関東1部校となりました。

個人では、郡山奈々が昨年度の日本学生選手権800m自由形で5位入賞、白野友梨奈がジャパンオープン2010において50m自由形で8位入賞を果たしました。

日頃、水泳部では、部活動を社会の縮図と捉え、部員には「チーム目標達成のため、自分の役割を考えて行動する」「やるからにはとことん本気で取り組む」という2つのことを常に追求しています。

また、「認め合い・支え合い・競い合うチーム」「多くの人から応援されるチーム」という2つのチーム理念を掲げ、これからも日々精進していきたいと思えます。日々の活動報告を以下で紹介していますので是非、ご覧ください。

<http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>



■2010年度 後期活動計画

10月	国民体育大会
11月	新潟水泳協会親善大会
12月	関東学生ウィンターカップ大会、年末強化練習
1月	長岡新春大会
2月	新潟県JO予選会、日本短水路選手権(JAPAN OPEN 2011)
3月	関東学生冬季公認大会、春季強化合宿

バスケットボール部

男女バスケットボール部は強化クラブとして発足当初から新潟県内外のバスケットボールファン、関係者に注目されながら各種大会で上位入賞してきました。

男子バスケットボール部は、平成22年度北信越春季リーグ戦1部初参戦し、準優勝しました。今季も選手スタッフ丸となって、2回目のインカレ出場、インカレ上位入賞を目指しています。

女子バスケットボール部は、平成22年度北信越春季リーグ戦1部優勝3連覇しました。北信越学生インカレ予選では4連覇、5年連続のインカレ出場、インカレ上位入賞を目指しています。

男女バスケットボール部には、高校時代に全国レベルで活躍した学生が沢山所属しています。今年度も新潟県内外から強力な新戦力となる1年生が入学しました。練習内容もさらにレベルアップし毎日明るく、楽しく、厳しく練習に取り組んでいます。



■2010年度 後期活動計画

10月	北陸選手権
11月	新潟県選手権、北信越学生バスケットボール選手権(インカレ予選)
12月	北信越総合選手権、全日本学生選手権(インカレ)
1月	新潟県学生選手権
2月	全日本総合選手権
3月	春季強化合宿

陸上競技部

陸上競技部は現在約60名の部員で構成され、短距離、長距離、跳躍、投てきの4ブロックに分かれて活動しています。昨年度の全日本インカレで2年土田祥太が円盤投げで6位入賞を果たし、今年度も円盤投げで北信越学生記録を更新しました。

女子400mハードルで遠藤沙織、女子走り幅跳びで小林夢衣の4年生を中心に今年度の北信越インカレでは7名の優勝者を出し、全日本インカレには9名が出場できるようになりました。年々全日本インカレ出場者が多くなっています。

また、長距離ブロックでは全日本インカレに出場する中澤翔、杉坂侑磨を中心に全日本大学駅伝(熱田神宮～伊勢神宮)の出場を狙っています。堀内曜子や柴澤真南美は北信越代表として全日本大学女子選抜駅伝(つくば)の出場を狙っています。陸上競技部は北信越インカレで総合優勝する目的も持ち、そして、全日本インカレで入賞者を出せるように日々練習に励んでおります。



■2010年度 後期活動計画

10月	出雲全日本大学選抜駅伝競走、全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台)北信越学生陸上競技選手権
11月	全日本大学駅伝(熱田神宮～伊勢神宮)
12月	全日本学生女子選抜駅伝(つくば)
1月	通常練習
2月	通常練習
3月	全日本学生ハーフマラソン、全日本女子学生ハーフマラソン

医療福祉施設 求人説明会開催

NEWS 01

8月16日(月)、本学キャンパスにて「医療福祉施設 求人説明会」が開催されました。この説明会は、本学就職センターが就職支援の一環として毎年実施しているもので、医療福祉施設71施設140名の採用担当者様にお越し頂きました。昨今の景気悪化に伴い就職不安がさげられる状況下において、昨年とほぼ同数の施設・採用担当者様にお越し頂き、あらためて保健・医療・福祉分野の専門職へのニーズの高さを実感する機会となりました。

説明会では山本 正治学長による挨拶で全体会が始まり、続いて個別ガイダンスが行われました。個別ガイダンスでは、採用担当者様から当該施設の説明をして頂き、本学学生からの質問にも丁寧にお応え頂きました。参加した学生たちは、通常の就職ガイダンスなどではあまり聞くことの出来ない、詳細な情報を得ることができたようです。

終了後、採用担当者様からは「真面目で熱心に耳を傾けて頂き、好印象でした」(本学アンケートより)と、好評を頂き、参加した学生からは「就職を考えている施設が説明会に参加していて、参考になった点が多かった」(本学アンケートより)などの意見がありました。

就職活動が本格化するにあたって、病院・施設に関する詳細な情報が得られたとともに、今後の進路に向けて大きな収穫を得ることのできた有意義な機会となったようです。

本学では今後もこうした就職支援を積極的に行い、学生の夢の実現をサポートしていきます



フィリピン共和国・アンヘレス大学財団との国際交流に関する覚書を締結

NEWS 02

8月18日(水)、本学とフィリピン共和国アンヘレス大学財団との間に、国際交流に関する大学間覚書を締結致しました。

今回、覚書を結んだアンヘレス大学財団は、設立48年を迎え、フィリピン国内において、大学院の学位を持つ教員数の割合が高く、質の高い教育と研究の基盤となっております。さらに最新技術の機材と施設の設置により、63もの一般教養教育プログラムのある大学となっております。

アンヘレス大学財団と本学は、平成21年2月に本学理学療法学科の教員・学生が海外短期研修としてフィリピン共和国を訪れ、医療福祉に関連する施設を訪問するほか、理学療法士を育成する同大学を訪問するなど、学生交流を深めてまいりました。

調印式では本学学長 山本 正治、アンヘレス大学学長 Jpseph

Emmanuel Lukban Angels(ヨセフ・エマニュエル・アンヘレス)氏よりご挨拶を頂き、その後、覚書に調印が行われました。

覚書には、質の高い教育と研究の実現に向けて、教員開発・共同研究・情報交換・学生交流プログラムに関する内容が示され、両大学の更なる交流が期待されます。

本学では今後も、保健・医療・福祉分野の連携実現を目指し、国際交流の推進に努め、学術交流及び学生交流を進めてまいります。



本学最大のイベント!「オープンキャンパス2010」が行われました!

NEWS 03

7月17日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)、「オープンキャンパス2010」が開催されました。山本正治学長挨拶からはじまったオープニングプログラムでは、恒例の在校生へのインタビューが行われ、参加者からは在校生の生の声が聞けるとあって大盛況でした。

また、2011年4月新設の臨床技術学科を含む全10学科による「学科説明会」をはじめ、フリープログラムでは、本学の特色や入試について説明する「大学概要・入試概要説明会」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」そして、各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に、オープンキャンパスの醍醐味である体験プログラムでは、

40種類以上のプログラムが実施され、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある複数学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができたようです。

また、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子やサークル活動についてなど、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に知っていただくことができました。

本年度のオープンキャンパスは、これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施いたしますので、機会があれば是非一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。

第10回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

NEWS 04

今年度の学術集会は、テーマを「ライフ・イノベーション」とし、ライフ・イノベーションを支えるスーパー専門職について考えることを狙いとしております。

10周年記念として、「予防医学研究40年の経験を通して語る、これからの保健・医療・福祉問題」について本学学長 山本正治を講師として、講演を行う予定です。

また特別講演として、「自分にふさわしい運動をいつでもどこでも」と題し、新潟大学大学院 自然科学研究科 教授 木竜 徹先生に講演を行っていただく予定です。参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

第10回 新潟医療福祉学会学術集会

日 時：平成21年10月30日(土)
会 場：新潟医療福祉大学 大講堂
大会長：新潟医療福祉大学 医療技術学部理学療法学科 教授 大西秀明
プログラム(予定)：9:30～ 会頭挨拶
9:35～ 10周年記念講演
10:20～ 一般演題(口述セッション)
11:50～ 新潟医療福祉学会総会
13:20～ 一般演題(ポスターセッション)
14:20～ 特別講演
15:05～ シンポジウム
16:15～ 優秀演題表彰、閉会

学友祭

第10回 伍桃祭(大学祭)案内

今年の
テーマ

「STAND BY」

～支えたい～

今年の伍桃祭では、今まで先輩たちによって築きあげられてきたものをさらにもう一段階ステップアップし、より良いものにしようとして企画しています。

私たち学生が多くの人と出会い協力し合う、関わりあうきっかけになるように今年のテーマは「STAND BY」にしました。このテーマには、学生が学部学科を越えてお互いに支え合える関係を築きたい、患者様を支える存在でありたい。また、大学のある新潟市北区の地域の皆さんとより密接に関わり合いたいという願いが込められています。

さらに今年の伍桃祭では、来場者参加型写真アートやスタンプラリー、地元小中学校吹奏楽の演奏など地域の皆さんが参加できるイベントが盛り沢山です。

他にも多くの出店が立ち並び、同窓会や生涯学習センター運営委員会主催の講演会なども開催されます。また昨年に引き続き「eco」にも率先して取り組んでいきます。伍桃祭をより地域密着型のお祭りにし、地域交流のきっかけになるようにしていきたいと思えます。

10月9・10日、新潟医療福祉大学でたくさんの皆さんのご来場をお待ちしております。

第10回伍桃祭実行委員長 大井 結季



イベント案内

第10回 新潟医療福祉大学「伍桃祭」

- 「RAGFAIR」によるライブ
- 戦場カメラマン 渡部 陽一 講演会
- 「ひなた」によるライブ
- 部活・サークルによる発表
- 模擬店
- ビンゴ大会
- Mr.&Ms.コンテスト
- 学科対抗パフォーマンス大会
- フリーマーケット



このほかにも交流イベントが満載です。ぜひお越しください。

大学祭ホームページ案内

<http://gotousai2010.web.fc2.com>



受験生のみなさんへ

■募集学科・募集人員(1年次)

理学療法学科	80名	健康栄養学科	40名
作業療法学科	40名	健康スポーツ学科	100名
言語聴覚学科	40名	看護学科	80名
義肢装具自立支援学科	40名	社会福祉学科	120名
臨床技術学科	80名	医療情報管理学科	80名



入試やイベント情報等、詳しくはホームページをご覧ください。

■入学試験日程

入試区分	学 科	出願期間	試験日
AO入試	全学科	受付終了	第1次9/11(土) 第2次10/16(土)
推薦入試	公募推薦	全学科	10/25(月)~11/2(火) 11/13(土)
	指定校推薦	全学科	10/25(月)~11/2(火) 11/13(土)
	スポーツ推薦	健康スポーツ学科	前期10/25(月)~11/2(火) 後期12/1(水)~12/14(火) 前期11/13(土) 後期12/18(土)
	特別推薦	医療情報管理学科	12/1(水)~12/14(火) 12/18(土)
社会人等特別入試	全学科	10/25(月)~11/2(火) 11/13(土)	
センター利用入試(前期)	全学科	1/6(木)~1/24(月)	1/15(土)・16(日)
センター利用入試(後期)	理学療法学科 健康栄養学科 言語聴覚学科 健康スポーツ学科 臨床技術学科 看護学科	2/7(月)~2/18(金)	
一般入試(前期)	全学科	1/6(木)~1/24(月)	2/4(金)
一般入試(後期)	全学科	2/7(月)~2/18(金)	3/2(水)
3年次編入試験	①健康スポーツ学科* ②看護学科	①9/29(水)~10/5(火) ②8/23(月)~ 9/1(水)	①10/16(土) ② 9/11(土)

※出願前にエントリーが必要となります。

新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務局】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

